荘厳浄土寺境内遺跡発掘調査（SG02－１）現地説明会資料

大阪市教育委員会・（財）大阪市文化財協会

2003年３月１日

荘厳浄土寺は、真言律宗に属し、祀られている不動明王像、愛染明王像は大阪府の有形文化財にも指定されています。寺院の創建年代は不明ですが、平安時代末の応徳元年（1084年）に、**白河天皇**の勅願により**津守国基**が再興しています。当時は、住吉神宮寺、津守寺と並び「**住吉三大寺**」と称されるほどの壮大な規模を有していたといわれ、寺内に今も残る巨大な礎石が、往時の盛観をしのばせます。しかし、これまでは周辺一帯で古い瓦が発見されたものの、本格的な発掘調査はほとんど行われていませんでした。

今回の発掘調査地は、現在の境内の西隣にあたります。調査の結果、古代から近世にいたる各時期の遺構を検出しました。そのうち寺院に関係するのは中世以降のものとなります。

中世の遺構は14世舵のものが中心で、**井戸**７基、**溝**、そして多数の**柱穴**が見つかりました（図１）。井戸や溝からは椀や皿、釜といった日用品や、寺院にふかれていたと思われる瓦が多量に出土しました。出土した瓦には**複弁蓮華文軒丸瓦**や**均整唐草文軒平瓦**があります。瓦が多量に出土することから、この調査地は寺院の中心に近いと考えられます。しかし、多量の日用品が出土すること、井戸がいくつも掘られていること、柱穴が小型で、配置に規則性がないことから、寺に近接した生活空間であったと考えられます。

その後、これらの井戸や溝は埋め戻され、整地された後、江戸時代にいたるまで耕作地として利用されたことが明らかになりました。残された史料によれば、遅くとも16世紀には伽藍の荒廃がすすみ、一が耕作地とされたようです。このことは、今回の調査の結果と符合します。

江戸時代の遺構としては**柵**や**井戸**、**池**が見つかっています。池は方形で、南西に排水のために瓦を組み合わせて作った暗渠が設けられていました。この池からも多量の瓦が見つかっています。

また、以上の成果のほかに、寺院創建以前の**飛鳥～奈良時代の遺構**を確認しました（図２）。遺構は南北方向の**溝**と東西方向の**溝**、さらに方形の**柱穴**からなります．柱穴は東西に４基が並び、柵もしくは建物の一部と考えられます。寺院建立以前にも台地上に位置するこの地が居住地として利用されていたことが分かります。

このように、今回の調査では、荘厳浄土寺の変遷を知るうえで貴重な成果を得ることができました。荘厳浄土寺は平安末以来、現在にいたるまで千年の歴史を有する寺院でありながら、文献の断片的な記録や境内に残された礎石からわずかにその歴史を知るだけでしたが、今回の調査は史料を補足し、寺院の盛衰をより具体的にしたといえるでしょう。

	年代	記事
平安時代	天慶年間（938－947）	前身寺院存在か？
	応徳元年（1084）	津守国基が白河天皇の勅を賜り建立
	永長元年（1096）	落慶法要
鎌倉時代	文応元年（1260）	西大寺の末寺となる。
	嘉元元年（1303）	大仏師弁秀、小仏師信賢により愛染明王像造立
	正中二年（1325）	愛染明王像彩色
南北朝時代	正平十六年（1361）	地震により櫻門、仁王像倒壊。
	正平十八年（1363）	法華八講
	正平二十一年（1366）	法華八講
	天授元年（1375）	仁王門再建
	永和四年（1378）	仁王像彩色
室町時代	大永四年（1524）	寺域を開墾し田畑としたものから寺の修理費を徴収
江戸時代	慶長十一年（1606）	本堂修築

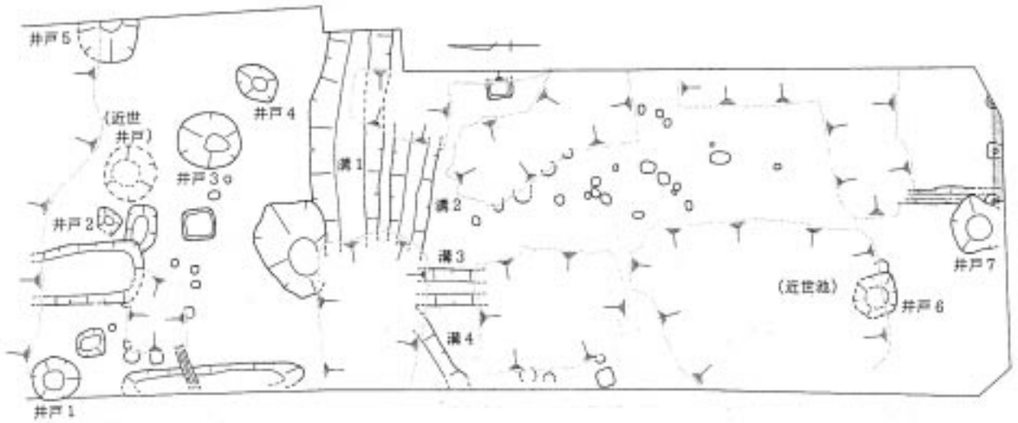

図１　中世の遺構配置図

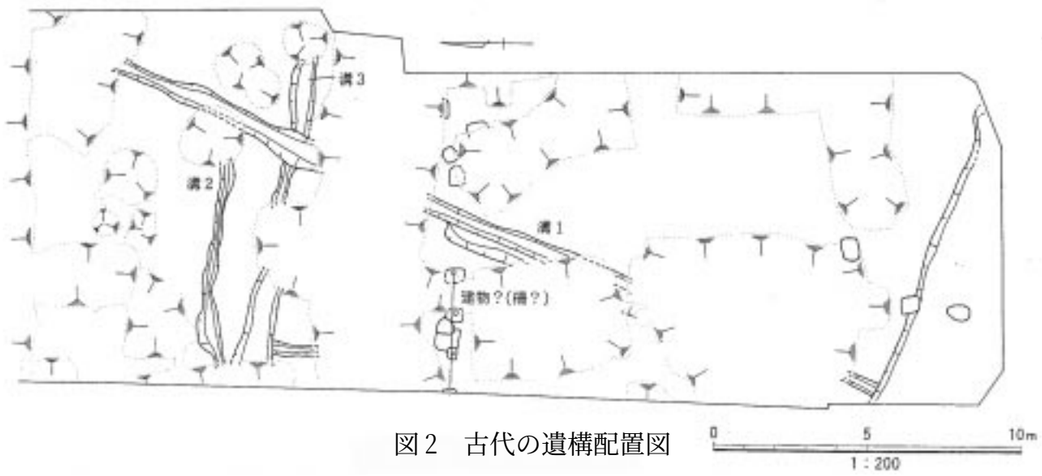

図２　古代の遺構配置図